

安楽死のリアル

一つではない「良い死」

人生の最期に「安らかに」かつ「楽に」死ぬことが安楽死であると言えるならどれほど簡単なことだろうか？

一人ひとりの生存が互いに違っているように、一人ひとりの安らかさも楽さも「良い死」も違った顔をもっている。それだけでも十分に問題は複雑だ。さらに、安楽死は一人での個人的な死ではあり得ず、かつて「安死術」や「慈悲殺」とも呼ばれたとおり、医療者や周囲の人びととの関わり合いの中で作られる「社会的な死」でもある。

安楽死直前の家族団らんでの晩餐、ターミナル患者の安楽死ツーリズム、うつ症状と自傷で苦しむ精神障害者の安楽死、安楽死を選ばなかったことを喜ぶ癌サバイバーなど、スイス、オランダ、ベルギー、スペイン、米国、日本での取材を重ねてきたジャーナリストの宮下洋一さんを迎え、安楽死・尊厳死・自殺幫助の現状と課題を徹底討論。

登壇する人びと

宮下 洋一 ジャーナリスト

バルセロナ在住。ウエスト・バージニア州立大学外国語学部卒。スペイン・バルセロナ大学大学院で国際論修士、同大学院コロンビア・ジャーナリズム・スクールでジャーナリズム修士。著書に『安楽死を遂げるまで』（第40回講談社ノンフィクション賞）、『卵子探しています 世界の不妊・生殖医療現場を訪ねて』（第21回小学館ノンフィクション大賞優秀賞受賞）など。

安藤 泰至 鳥取大学医学部 准教授

京都大学文学部哲学科卒。専門は宗教学・生命倫理・死生学。編著書に『いのちの思想』を掘り起こすー生命倫理の再生に向けて、『シリーズ生命倫理学4 終末期医療』など。

大谷 いづみ 立命館大学産業社会学部現代社会学科、生存学研究センター

立岩 真也 立命館大学先端総合学術研究科、生存学研究センター

司会

美馬 達哉 立命館大学先端総合学術研究科、生存学研究センター



日時
2019年 **2月2日**(土) 午後2時30分～
会場

立命館大学 朱雀キャンパス 多目的室
<http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/suzaku/>

*資料準備などの都合上、可能な限り、参加される方は下記メールアドレスに事前にお名前と人数をご一報ください。

*情報アクセス保障(PCテイク、手話通訳など)については、1月20日(日)までにご連絡ください。

参加費無料・当日参加可能

主催：立命館大学 生存学研究センター

後援：立命館大学 先端総合学術研究科

お問い合わせ先

立命館大学 生存学研究センター事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245

E-mail: ars-vive@st.ritsumei.ac.jp

<https://www.ritsumei-arsvi.org/news/news-2581/>

プログラム [予定]

趣旨説明	14時30分
美馬 達哉	
ご講演	14時40分～15時20分
安藤 泰至 先生	
ご講演	15時30分～16時30分
宮下 洋一 先生	
コメントと総合討論	16時40分～18時00分
立岩 真也・大谷 いづみ	

